



日本製鉄を支え続ける 山九の事業

～一世紀にわたる長期的なパートナーシップとは?～

製鉄所の生産現場を広域で支援

日本製鉄株式会社(以下、日本製鉄)との取引は、山九が創業した1918年から始まりました。日本製鉄の前身である官営八幡製鐵所での鉄鉱石や石炭などの原材料の構内輸送を皮切りに、構内操業や設備保全などにも携わるようになり、現在では、全国6か所の製鉄所における生産現場全般の業務に深く関与しています。

製鉄所では、生活と産業に欠かすことのできない基礎素材である鉄を生産しています。24時間365日止まらない高炉は何十年も動き、巨大な生産ラインが広大な敷地に広がり、鋼材を生み出す工程は緻密な管理のもとに運営されています。

山九が担う業務は、その止まらない製鉄所の日々の安定稼働に直結する重要な役割を果たしています。原料荷役やヤード管理、搬送設備の清掃・点検から、高炉・コークス炉の操業サポート、製品の研削作業などの二次加工、精製、製品検査・出荷などの構内操業・物流までを行っています。また、コンベア設備の腐食点検や補修、突発トラブル時の即応など、設備の日常保全から定期修理に加え、製鉄・製鋼・圧延の各工程における設備の建設・改造工事にまで携わり、山九の物流と機工の両事業で各製鉄所の生産現場を支えています。

これほど長く、かつ多拠点で業務が継続する背景には、山九ならではの強みがあります。それは受託した業務を遂行す



る技能・技術力、現場を運営・管理する力に加えて、どんなに難しい依頼にも前向きに応える姿勢です。また、製鉄所の拠点や工程ごとで業務が区切られる傾向にある業界において、山九は全国にある各支店から人員の応援を柔軟に展開できる組織文化と運用体制を築いています。拠点横断で人材を機動的に動かせる動員力があることが、他社にはない競争優位性の一つになっています。「困った時は山九に」と声がかかる場面もあり、実際、他社が対応に苦慮する案件を引き受けて信頼を得る中で、新たに作業範囲が広がった例も少なくありません。

物流・建設・保全まで一貫通で担える総合力を強みに、生産現場の一員としてお客様と日々協働する体制のもと、お客様の多様なニーズに応え続けることで、着実に信頼を獲得して業務範囲の拡大につなげています。

創業から続く日本製鉄との関係

山九の歩みは日本製鉄の前身・官営八幡製鐵所との関係とともに始まりました。100年以上にわたり、日本製鉄の成長に寄り添いながら、生産現場での実行力を高めてきました。

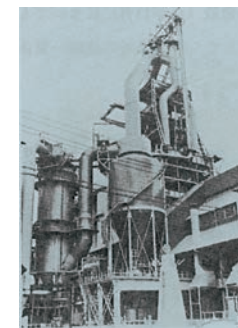
1907年 山九の母体「中村組」が海上輸送で八幡製鐵所に鉄鉱石の納入を開始。構内作業の効率化に注力。

1918年 山九運輸株式会社(現・山九株式会社)を門司市に設立。八幡製鐵所の構内業務に本格参入。

1932年 八幡製鐵所運搬請負共済組合を設立し、代表役員として下請業者統合に協力。

1961年 八幡製鐵所東田第一高炉建設工事を単独で受注。

現在、日本製鉄の複数拠点で各工程に携わり、物流・建設・保全まで一貫して対応。



多拠点で担う幅広い業務範囲

〈対応拠点〉

兵庫支店 **機工**

瀬戸内製鉄所 広畑地区

東中国支店 呉事業所 **機工**

瀬戸内製鉄所 呉地区

周南支店 **物流** **機工**

山口製鉄所(周南)

光支店 **物流** **機工**

山口製鉄所(光)

八幡支店

物流 **機工**

九州製鉄所

八幡地区(戸畑)／

(小倉)／(八幡)

大分支店 **物流** **機工**

九州製鉄所 大分地区

君津支店 **物流** **機工**

東日本製鉄所 君津地区

東日本製鉄所 鹿島地区

東海支店 **機工**

名古屋製鉄所

関西支店 **物流** **機工**

関西製鉄所 大阪地区(堺)

関西製鉄所 和歌山地区

瀬戸内製鉄所 阪神地区(堺)

〈業務範囲〉

製鉄工程



物流

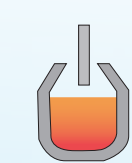
- 原料の受け入れ・払い出し、原料輸送、操業管理業務
- 高炉・コークス炉の操業支援

機工

- 設備の定期修理、日常保全
- 設備*の建設、改造工事

※コークス炉、焼結炉、高炉、ベルトコンベア

製鋼工程



物流

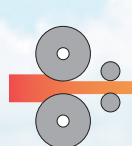
- 半製品のハンドリング、铸造付帯作業、スラブ研削、出荷検定、重量物運搬

機工

- 設備の定期修理、日常保全
- 設備*の建設、改造工事

※転炉、連続铸造設備

圧延工程・製品工程



物流

- 構内の製品輸送、出荷
- 製品の梱包、二次加工、精製、製品検査

機工

- 設備の定期修理、日常保全
- 設備*の建設、改造工事

※圧延設備、厚板設備、冷延設備

構内全域にわたり 製鉄所の生産現場を支援

約3,000名で生産現場を支える 東日本製鉄所君津地区での体制

山九は現在、東日本製鉄所君津地区構内において、社員約1,400名、協力会社約1,600名、あわせて約3,000名体制で業務を展開しています。原料荷役から圧延設備までの構内物流、設備の巡回点検・清掃・補修に加え、定期修理や建設工事まで一連の生産プロセスを幅広くカバーし、生産現場に最も近い立場から安定稼働に貢献しています。

業務の始まりは1964年の建設工事までさかのぼり、翌1965年には冷延工場での作業を開始しました。以降、君津地区構内に常駐しながら長年にわたって関係を築き、着実に業務範囲を拡大。2017年には老朽化が進んだコークス炉の健全化への対応を行い、それを契機にコークス炉・設備更新などの建設工事にも携わっています。

一般的に、製鉄所構内での業務はエリアごとに協力会社が分担する体制が敷かれています。そのような中において

も、山九はお客様の要請によって担当エリア以外の業務にも柔軟に対応してきました。このような対応力には現場の担当者の方々から、「山九に任せてよかった」といった声をいただくこともあります。現場に根差し、困難な局面でも確実に応え続ける——そうした一つひとつの積み重ねが、君津地区における山九への信頼と責任ある役割を築いています。

製鉄所を止めない、山九の「現場力」

君津地区では、操業状況に応じて、突発的かつ難易度の高い作業が少なくありません。山九はそうした状況でも、「どうやったらできるか？」を現場が主体となって考え、即座に動く体制を整えています。たとえば、深夜帯に突発的なトラブルが発生した際には、物流・機工の担当者が部署を越えて集まり、数時間で現場を復旧させるといった対応も行っています。この柔軟な動きの背景にあるのが、作業長やリーダーなど監督員が日常的にお客様と対面でやり

取りし、判断・提案・実行まで現場で完結させる現場主導の文化です。単なる指示待ちで業務を行うのではなく、自らの責任で動く姿勢が現場に根づいています。また、必要に応じて他支店からの応援要員を招集する仕組みも整っており、君津支店内で対応しきれない場合でも全国規模で人材とノウハウを集めて対応しています。日々のオペレーションから緊急時の対応まで、複数部門と拠点を横断して動ける体制が山九の大きな強みです。

変化するニーズに応える 今後の課題と展望

君津地区では、構内での業務を取り巻く環境が大きく変化しつつあります。特に今後、日本製鉄やパートナー企業全体で人材不足がさらに加速することが予想される中、山九の「動員力」に対する期待はこれまで以上に高まっていると考えています。現場の作業は一朝一夕で身に付くもの

ではなく、一定の経験年数が必要とされるため、継続的な人材確保と育成は喫緊の課題です。構内の広範な業務を止めずに遂行するには、安定した人員体制が不可欠であり、将来を見据えた採用や教育の仕組みづくりが求められています。加えて、カーボンニュートラルへの対応といった社会的な要請にも応えていく必要があります。高温・24時間稼働・屋外などといった作業環境や老朽化が進む構内設備の中で、限られた人員で操業を維持するには、AIやロボットなどの新技術を活用した機械化・自動化が欠かせません。君津地区では既にベルトコンベア周辺の清掃において、小型重機の導入や遠隔操作の試験運用が始まっており、今後はこうした技術の適用領域をさらに広げていく計画です。

山九は動員力、技能・技術力、変化対応力を武器に他社との差別化を図り、君津地区における存在価値をさらに高めていきます。そして、パートナーシップを発揮してさらなる業務範囲の拡大を目指していきます。

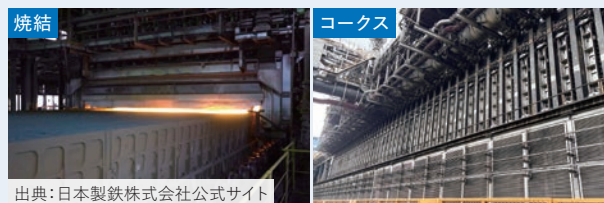
〈君津地区での業務範囲〉

製鉄工程



▶ **原料** 原料荷役からヤード受払、原料類のトラック輸送、環境整備、機械設備の保全業務から設備更新工事まで幅広く担当

物流 機工



▶ **焼結・コークス** 操業付帯設備の点検・補修、環境整備、コークス炉温度測定、機械設備の保全業務から設備更新工事までを担当

物流 機工



▶ **高炉** 高炉溶銑樋・スラグ樋の施工、保守管理を行う樋整備作業および機械設備の保全業務を担当

物流 機工

製鋼工程



▶ **製鋼** 重トレーラーによる溶鋼鍋の運搬、鋳滓類のトラック輸送、転炉設備・二次精錬設備の保全業務を担当

物流 機工

圧延工程・製品工程



▶ **圧延・冷延** 鋼管の手入れ検査、加工作業、設備の補修・日常点検・予備品整備、冷延工程における冷延コイルクレーン運転業務を担当

物流 機工

現場社員から

滞りなく原料を受け入れ、スムーズな操業を支える

輸入鉄鉱石を一時的に貯蔵する「ヤード」と呼ばれる敷地で、港から運搬された原料の置き場所と量を管理するのが私の仕事です。天候や機械のトラブルによって急な変更が必要になることもあり、その都度、現場の状況を踏まえて対応します。毎日2回お客様と打ち合わせを行い、作業計画をすり合わせながら、ヤードの受け入れ・払い出しを滞らせないようにしています。



ヤード測定担当
安藝 裕也

誰よりも早く異変に気付き、トラブルを防止

原料の鉄鉱石を運ぶためのベルトコンベアの点検を担当しています。300本近いベルトコンベアのうち1本でも止まれば製造ライン全体が止まるため、昼夜体制で巡回し異音や発熱など異常の兆しや堆積物を見逃さないよう確認しています。早期発見と初期対応によってトラブルを防止し、原料供給を止めずに操業を維持しています。



運転点検担当
白井 幸夫

製鉄所全体に関する領域もサポート

車両管理

構内専用の特殊車両を対象に、自社車両に加え、協力会社も含めた車両整備を実施。タンク車やスクラップ運搬車など多様な構内専用車両の運行を支えています。



作業管理

24時間体制で作業指示や運搬依頼を受け付け、現場オペレーターと連携。君津地区全体の構内物流を裏から支える重要な役割を担っています。

